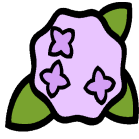


学校と
家庭と
地域を



つなぐ



三島市立山田中学校

※学校ホームページでもご覧になれます。

自律性を育てる大人の役割



青峰祭の中で、子どもたちの涙を浮かべた表情や、喜びにあふれて歓声をあげる姿に接すると、中学生のよさを感じます。競技で力を抜く生徒が一人もなく、全力投球する懸命さに圧倒される思いでした。実に気持ちのよい運動会でした。

判断力・実行力のある生徒へ



青峰祭体育の部の準備では、実行委員や各係は、担当の教師たちから厳しい「指導」を受けていました。そして、指導後の子どもたちの姿には、見違えるほどの活気がみなぎり、係生徒は自分がどう動けばよいのかを、自ら考えて行動しているようでした。そのことが、リーダーの気持ちを高め、集団全体の取り組みを向上させたようです。

言うべきことを言い、やるべきことをやる本物のリーダーを育てたのは、叱らねばならない場面できちんと叱った担当の教師たちの姿勢でした。教師（大人）の一線を守り示すことで、生徒は育つというみごとな典型でした。

自律した心を育てる



教師としては、叱るよりはほめる方が気持ちは楽です。叱ることが悪のように思われ、叱れない大人が増えてきている世の中で、叱るにはそれなりの覚悟(大げさな言い方ですが)と、エネルギーが必要です。子どもと直接対決しなければならないからです。しかし、大人の正当な怒りに直面することで、子どもは触発され変容していきます。

本校学校教育の重点に、「自律する心」(自分らしさを見つめ、自ら学び、自ら判断し行動する生徒)の育成があります。この「自律する心」を育てることは、子どもの成長に合わせて、徐々に他律(他から言われて行動すること)を少なくしていく試みですが、他律をなくすことではありません。

「当たり前にするべきこと」は「当たり前のこと」として、しっかりした指導が必要と考えています。教師も親も、「悪いことは悪い」「当たり前のことは当たり前」と、子どもと真正面から対峙する毅然とした態度が必要だと思っています。



大人の役割

さて、中学の時期は、成長途上にある生徒の心の揺らぎが強く表れる時期です。心に悩みがあり精神的に不安定になっているときは、顔色がさえなかつたり、服装や態度がいつもと違ってきたりします。そうやって周囲の大人に訴えてきます。

ある学校の保護者が、「親の言うことは聞きません。その格好で学校に行けば、先生に注意されるのはわかっているのですが、・・・・。」と話すのを聞き、考えさせられました。教師への信頼から出た言葉かもしれませんが、私には、親子で向かい合う絶好のチャンスを見すみす逃しているように思われてなりませんでした。

「だめなものだめ」と大人の一線を示すとともに、一步踏み込んでお子さんと話をしていただけないかと思えます。

お子さんは自分に真剣に関わってほしいと、心の中で願っていると思います。自分がまずいことをしている時、反抗的な言動とは裏腹に、心のどこかで「きちんと叱ってくれて、軌道修正のために力になってくれる」大人を求めているのではないのでしょうか。

物わかりのよさが、時には問題を先送りして重症にしてしまうこともあります。お子さんの生活や心の表れに関心を持ち、真正面から向き合ってはいかがでしょうか。時には「見守り」、時には「叱咤激励」し、時には「ここから先はダメ」と壁になって立ちほだかるのが、私たち「大人の役割」ではないのでしょうか。

焦らず、じっくり時間をかけて、お子さんの成長を見届けながら、学校とご家庭が協力して自律性を育てていきたいと考えています。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



花壇コンクールで、市長賞を頂きました!!



本年度の三島市花壇コンクールで山田中学校は、「市長賞」をいただくことができました。昨年12月からの花壇の土の改良、PTA環境整備部の方々の協力を得ての植え付け、花園委員会の生徒の水やりで育ててきました。ありがとうございました。一番感謝したいのは、花壇ボランティアに立候補していただいた地域の方々やPTAの方々です。



花壇を美しく維持することが一番難しいと感じます。写真のように、ボランティアの方々には、休日や仕事が終わってからも学校に来られて作業をしてくださいました。本当にありがとうございます。秋の花壇でも美しい花を咲かせたいと思います。